

# 第36回 縮小社会研究会



日本は科学技術立国をめざしています。そして、多くの矛盾を科学技術の進歩により解決すると先送りしています。ここで、科学技術でできることとできないことを明確にする必要があります。また、現在の技術や生産は豊富で安価な化石燃料の上に成り立っていますが、その行く末についても議論します。

時：2016年11月26日（土）13時30分より

所：京都大学 文学部新棟 第3講義室

地図：[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r\\_y/](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_y/) の 8

参加登録：会のホームページの案内より登録願います。または、下記より

[http://confreg.ate-mahoroba.jp/confreg?conf\\_idstr=z2rz1vLeGL2iTrN80krm0iYe901](http://confreg.ate-mahoroba.jp/confreg?conf_idstr=z2rz1vLeGL2iTrN80krm0iYe901)

参加費：会員は無料、非会員は500円

講演1. 13:30-14:30 **「化石燃料の枯渇がもたらす経済成長の終焉（著：久保田宏ほか）」の紹介**

五十嵐敏郎（金沢大学非常勤講師、もったいない学会理事）

化石燃料資源の枯渇により経済縮小が始まり、資本主義社会の終焉も予想される。著書では、技術立国日本の経済が技術力を生かして困難を乗り越えて生き延びるためのエネルギー政策について述べ、科学技術の視点から可能な対策について解析・検討した結果に言及する。



講演2. 14:30-15:15 **「7つの疑惑」シリーズ その1のエネルギー編**

中西香（四天王寺大学非常勤講師）

シェールガス、可採年数、原油価格、枯渇時期、人類の生存維持・危機回避策等について、論説のQ&Aに沿って、整理してお話いたします。



講演3. 15:25-16:10 **「ロボット、人口知能」**

尾崎雄三（元弁理士）

資源などの観点から縮小を余儀なくされる社会において、ロボット・人工知能が急速に進歩し、使用が拡大しています。ロボット・人工知能の現状とこれからの社会における問題点を紹介します



講演4. 16:10-16:55 **「生殖補助医療が抱える新たな倫理問題」**

入澤仁美（順天堂大学 病院管理学、兵庫医科大学 先端医学研究所）

近年の生殖補助医療の進歩は著しく、法整備も倫理検討も十分に行われないうまま、治療だけが独り歩きをして拡大しているのが現状である。どのような範囲で治療の縮小を行うべきか、倫理的観点から考えていく。



全体討論 17:00-17:30

懇親会：17:45-19:30

(2000円)

一般社団法人 縮小社会研究会

〒606-8227 京都市左京区田中里ノ前町21 石川ビル305

e-mail: [jimukyoku@shukusho.org](mailto:jimukyoku@shukusho.org)

HP: <http://shukusho.org/>